

校長通信「並木ドリーム」最終号です！

並木中等教育学校の校長に赴任した2016年4月にスタートした、校長通信「並木ドリーム」がいよいよ**最終号**を迎えました。4年間で、**470号**まで発行できて幸せでした。

さて、最終号は、3月30日（月）付け**茨城新聞第20面**の記事です。「**退職校長に聞く**」という内容で、先日インタビューを受けました。退職教職員1038名の中から選んでいただき、たいへん光栄です。また、笑顔の写真を使っただき嬉しいです(*^_^*)！

本校ホームページで、**並木ドリーム**を読んでもくださった皆さん、本当にありがとうございました。これからも、茨城県立並木中等教育学校をよろしく願いいたします。(完)

退職校長に聞く

生徒の深い学び促す

並木中等教育学校
中島 博司さん



今春、県内の公立学校などで活躍した教職員1038人（教育庁含む）が現場を去る。教員生活の思い出や教育への思いなどを2人の校長に聞いた。

「校長になってからも常に学び続けることを意識した」。37年間の教員生活を振り返り、信念を語った。

日本史担当の高校教師として教員生活をスタートした。教員4年目で赴任した並木高では、板書のポイントを冊子にしてま

とめた「スーパージョーナル」を作成して授業前に配布。板書の時間を割愛してその時間を解説に充て、生徒をより深い歴史の学びに導いた。「歴史の学びが楽しくなるよう常に授業に研究を重ねた」と力を込める。

校長として約20年、さらに戻った並木中等教育学校では、主体的・対話的で深い学びを促す「アクティブラーニング」（A・L）の推進に尽力した。「受け身ではなく、自ら学びをつかみに行く若者を育てたかった」と思いを語る。

■2020年3月30日付け 茨城新聞 第20面より
※茨城新聞社様の掲載許可をいただきました。